

# 回収水濃度試験方法（精密試験）

ZKT-104:1980（制定）

2007（改正）

[全生工組連試験方法]

1. 適用範囲 この規格は、回収水の濃度の測定に適用する。
2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS A 5308 附属書 3（規定）レディーミクストコンクリートの練混ぜに用いる水

## 3. 試験器具

3.1 はかり はかりは、ひょう量 1kg 以上で、目量が 0.1g 又はこれより小さいものとする。

3.2 乾燥用容器 容器は、容量約 500mL を容れるのに十分な大きさのものとする。

3.3 ビーカ ビーカは、容量 500mL のものとする。

4. 試料 試料は、代表的なもの約 5L を採取する。

## 5. 試験方法

1) 乾燥用容器の質量を量り( $W_p$ )とする。

2) 代表的試料をよく攪拌しながら乾燥用容器に約 500mL 分取し、その質量を量り( $W$ )とする。

3) これを乾燥機に入れ、105～110 で定質量となるまで乾燥する。室温まで放冷した後、その質量を量り( $S$ )とする。

6. 計算 回収水濃度は、次の式によって算出し、四捨五入を行って小数点以下 1 けたに丸める。

$$C_s = \frac{S - W_p}{W - W_p} \times 100 - 0.2 \quad (^1)$$

ここに、 $C_s$ ：回収水濃度(%)

$W_p$ ：容器の質量(g)

$W$ ：容器と試料の質量の合計(g)

$S$ ：乾燥後の容器と試料の質量の合計(g)

注<sup>(1)</sup> 日本コンクリート工学協会回収水委員会報告より、全国平均の上澄水の溶解成分量は 0.2% なので、これを差し引くことにより、「ろ過による方法」とほぼ同一値になる。

7. 報告 報告には次の項目を記載する。

1) 試料採取日時

2) 試験月日

3) 回収水濃度  $C_s$  (%)

# 回収水濃度試験方法（精密試験）

## 解 説

この解説は、本体に規定した事柄及びこれらに関連した事柄を説明するもので、規格の一部ではない。

この試験方法は、生コン工場で試験しやすく、試験誤差も比較的小さい試験方法である。大量の回収水を貯蔵する槽にあっては、攪拌方法や、サンプリングの位置によって測定結果にバラツキを生じることがあるので、サンプリング位置による差異をよく確かめた上で、平均濃度の得られる位置を定めておくことが大切である。

また、サンプリング後、試料を分取する際にも、分離によって濃度に差を生じ易いので、十分な攪拌により一様な濃度となった試料から分取するようにならなければならない。